

別紙 1

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	岩手県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	遠野市立遠野北小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	24
児童数	70	68	71	73	69	75	6	432	

研究の概要

1. 研究主題

<p>「算数科における基礎・基本の定着を図る指導と評価」 習熟の程度に応じた指導の工夫を通して -</p>
---

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

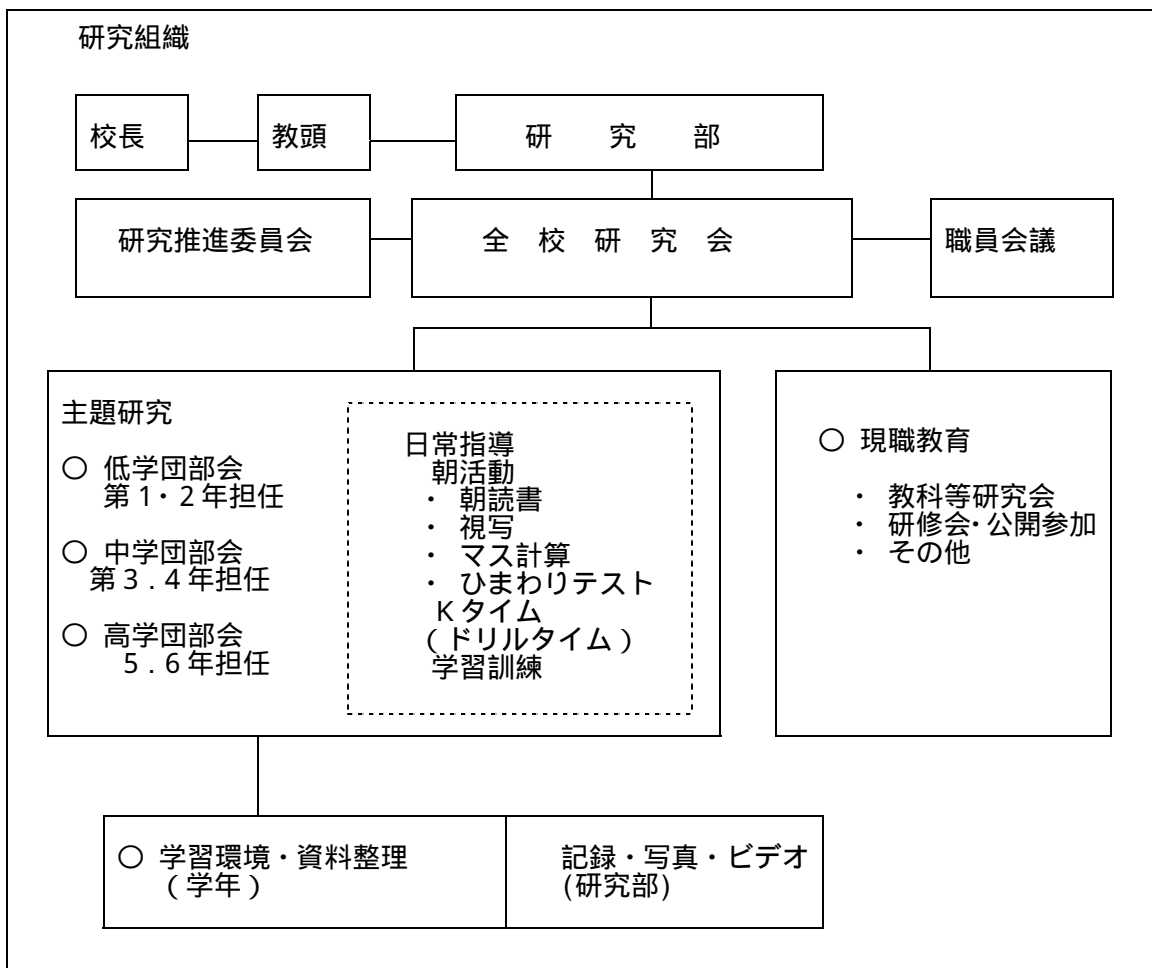
<p>全学年・算数 学校として、当該教科に関する研究実績があり、習熟の程度に応じた指導の工夫が深められつつあるため 全学年・国語 これまでの研究成果と児童に対する実態調査の結果から、教科の枠を広げ学びの基になる「読み・書き・計算」の力を日常実践から付ける研究に取り組むため</p>
--

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 『算数科における基礎・基本の徹底および、日常実践においての「読み・書き・計算」の力と集中力の向上めざして』 研究の見通し 研究主題における仮説 「習熟の程度に応じたグループを編成し、次のような指導を行えば、基礎・基本の定着を図ることができるであろう。」 ・ 単元における算数的活動の工夫をする。 ・ 習熟問題に取り組む場の保障をする。 ・ 個のよさを生かす評価の工夫をする。 日常実践における見通し 日常実践において、授業時間以外でも学力の定着を図る手立てを検討し実践すれば「読み・書き・計算」の力と集中力の向上を図ることができるであろう。 研究の内容・方法 仮説の検証を行い授業改善を図る。 標準学力検査分析による児童の実態把握及び補充的な指導を行う。 日課表の見直しを行い（ドリルタイムの新設）授業時間以外でも学力の定着を図る手立てを検討する。 学習環境を整えるための方策を明らかにする。 全校一斉の朝活動の工夫を図る。</p>
--------	---

平成 16 年 度	<p>テーマ 『算数科における基礎・基本の徹底および、日常実践においての「読み・書き・計算」の力と集中力の向上めざして』</p> <p>研究の見通し 研究主題における仮説 「習熟の程度に応じたグループを編成し、次のような指導を行えば、基礎基本の確かな定着を図ることができるであろう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・形成的評価の工夫をする。</li> <li>・習熟問題に取り組む場の保障をする。</li> <li>・個のよさを生かす評価の工夫をする。</li> </ul> <p>日常実践における見通し 日常実践において、授業時間以外でも学力の定着を図る手立てを検討し実践すれば「読み・書き・計算」力と集中力の更なる向上を図ることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 仮説の検証を行い授業改善を図る。 標準学力検査分析による児童の実態把握及び補充的な指導を行う。 日課表の見直しを行い（ドリルタイムの新設）及び、授業時間以外での学力の定着を図る手立てを検討する。 学習環境を整えるための方策を明らかにする。（掲示及び生活の中の算数と国語） 全校一斉の朝活動の工夫を図る。</p>
--------------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題  
1. 研究成果

- (1) 視写・マス計算・音読の意識調査より  
視写・マス計算・音読について進んで取り組んでいるかどうかアンケートを行った。結果、自分自身の伸びが見えるマス計算に対する意欲が高かった。
- (2) 算数科における単元ごとのP1・P2結果による有効度より  
指導の有効性を確かめるため、単元ごとにP1テスト(プレテスト)P2テスト(総括テスト)を実施し、単元の学習内容の定着が図られているか検討した。

例【4年「数と計算」領域と他の領域についての結果】 (学年有効度指数)

単元	コース	人数	P1 テスト	P2 テスト	全国 期待値	全国 との差	有効度 指数	学年 平均
3 わり算 の筆算 (1)	ばっちり	12	6.2	79.5	85	-8.2	78.1	90.3 (87.6)
	しっかり	26	7.8	89.4		4.4	88.5	
	チャレンジ	35	36.9	94.8		9	91.7	
4 折れ線 グラフ	ばっちり	12	34.4	69.1	85	-15.9	52.8	90.4 (79.9)
	しっかり	30	48	93.7		8.7	87.8	
	チャレンジ	31	63.3	97.7		12.7	93.7	

有効度指数は70以上を有効と見ることとする。

<考察>

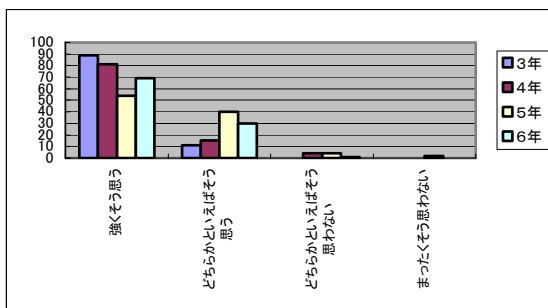
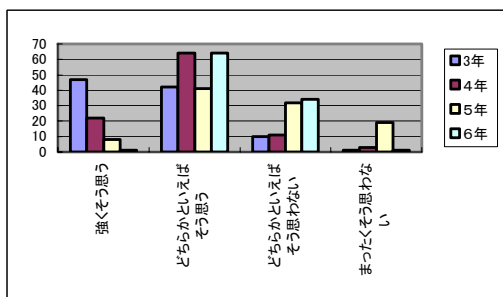
「数と計算」領域ではどのコースも有効度指数が70以上である。少人数指導により細やかな指導と習熟の時間確保をねらって組み立てた指導過程の成果と考える。さらに、一人一人が伸びるためにも、評価についても考えていかなければならない。

(3) 質問紙調査(アンケート)の結果分析(一部)より

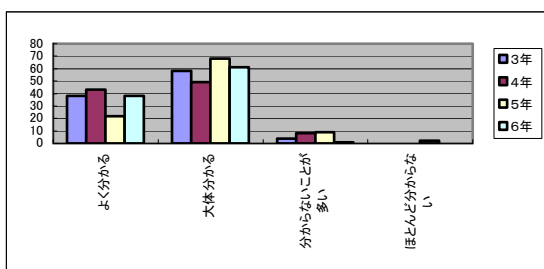
H15.10.12実施

Q1 勉強が好きですか (%)

Q2 勉強は大切だと思いますか (%)



Q3 学校の勉強がよくわかりますか (%)



<考察>

どの学年も勉強は大切だと感じている。学校の勉強も「よく分かる」「大体分かる」がほとんどであるが、「分からないことが多い」「ほとんど分からない」と答えている子もいて、今後配慮すべきである。

- (4) 校内研究からの成果  
習熟の程度に応じた指導をすることにより児童の実態にあった指導が可能になった。  
少人数担当と担任とで教材研究が深められるとともに、情報交換ができ、多面的に児童の伸びやよさを発見できる機会が増えた。  
研究仮説を意識して授業を組み立てることにより、分かる授業に迫りつつある。
- (5) 日常実践からの成果  
全校一斉の朝活動から、「学校は勉強するところ」の意識が育ち、落ち着いて1時間目が始められるようになった。また、聞き取ったことを思い出して記録する活動（火曜日全校朝会后）は、話を集中して聞かなければという意識を持つようになった。  
マス計算（木曜日）については、自分の成長を見ることができ意欲的に基礎計算力アップに取り組むようになった。  
15分のKタイム（ドリルタイム）は落ちている点の補充にあてることができ有効であった。

## 2. 今後の課題

基礎基本の定着のための教材研究をさらに深め、教えなければならない部分と見守る部分の見極めを行い指導力の向上を図る必要がある。  
効果的な形成的評価を工夫し、児童一人一人が成就感をもつ授業を目指す。  
習熟の程度に応じた指導形態の工夫を図る。  
日常実践を全校で常にふり返りながら意欲的に取り組めるよう手立てを組む。  
家庭との連携をさらに密にする必要がある。

### 学力等把握のための学校としての取組

- 1 N R T 検査
  - ・目的・・・前学年の学習の定着を検査し補充・強化の手立てを組むため
  - ・実施内容・・・国語科，算数科
  - ・実施時期・・・4月
- 2 C R T 検査
  - ・目的・・・現学年の学習の定着を検査し補充・強化の手立てを組むため
  - ・実施内容・・・国語科，算数科
  - ・実施時期・・・12月
- 3 算数科における単元ごとのP1・P2結果による有効度
  - ・目的・・・コースにおける指導が有効であったか。落ちている場合の手立てのために。

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 1 学校公開研究会開催予定
  - ・日時、平成16年8月31日(火) 場所、遠野市立遠野北小学校
  - ・目的 フロンティアスクールとしての取り組み成果を広く知ってもらうため。
- 2 研究成果普及のため
  - ・学力向上通信「かがやき」の発行。
  - ・拡大授業参観（保護者だけでなく地域の方々へも参観の呼びかけ。）
- 3 フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動
  - ・同地域の学力向上フロンティアスクールとの研究授業の交流。

